

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110115799		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームどんぐり		
所在地	佐賀市嘉瀬町中原1676-3		
自己評価作成日	平成29年2月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月3日	外部評価確定日	平成29年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の健康管理については、関連医療機関との連携により万全を期しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>佐賀市郊外に位置し、母体法人の病院や介護施設が点在する一角に建つ平屋建てのグループホームである。交通の便もよく県庁所在市の中心部に近いが、田園風景も広がる静かでゆったり落ち着いた環境である。平成15年、まだグループホームの数が少ない頃、ユニットケアを作りたいとの思いから開設された。開設当初から地域密着を掲げ、地域と密着する重要性を運営理念に掲げている。経営母体が医療法人で病院に隣接して建っていることは、体調の変化に素早く対応できるなど家族の信頼と安心につながっている。利用者の身体的状況に合わせて車イスやリクライニング車イスを活用し、離床に結び付けたり、居間で他の利用者とのふれあいの時間を多くとれるような支援につなげている。実際、居間でくつろぐ2～3人の複数グループがそれぞれ居心地のいい場所でゆったりしている姿が見られた。管理者に聞くと、それぞれが一番のお気に入りの場所と人間関係の中でくつろいでいるという。ゆったりとした環境の中、穏やかな管理者の笑顔とお話しが印象的な事業所である。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	明るく家庭的な雰囲気の中で、地域や家庭との結びつきを重視し、利用者の人格を尊重しつつ能力に応じた自立支援を行うという理念を作っている。管理者と職員は、日常生活を通して理念に沿ったケアの確認と、利用者の立場に立った支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。	開設当初からの理念に、地域の結びつきを重視すると言う文言が有り、地域との関わりを大切にした支援を心がけている。管理者は職員に、地域との密着がいかに重要か、近所の人とつながる事の大切さを伝えている。経営母体法人合同の祭りには、子どもも含めた地域住民も参加されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症に関することなどで勉強したこと等を発表し、地域に向けて発信している。相談があれば認知症の人の、具体的な支援の方法を指導している。	運営推進会議で、認知症に関することなどで勉強したこと等を発表し、地域に向けて発信している。相談があれば認知症の人の、具体的な支援の方法を指導している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター職員・民生委員の参加で2ヶ月に1度開催され、行事報告や情報提供・意見交換などがなされている。出された意見や要望は検討し、事業所防災訓練と地域防災訓練の連携を模索するなど、サービスの向上に活かしている。	地域住民や自治会・各種団体など、多方面かつ幅広い層からの人選による委員数の増加が望まれる。運営推進会議が行事等の報告にとどまらず、より多くの意見が出る情報交換の場となるように期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	地域包括支援センター職員が運営推進会議の委員であることから、日頃からよく話し、協力関係にある。家族からの質問や相談をつなぐこともある。経営母体の法人が行政との窓口になっており、行政から協力依頼がある時は法人本部が受けているが、ホーム職員が応援に参加することもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行っている。	定期的に身体拘束についての研修を行っている。	契約時に、利用者と家族に事業所の考えを説明し、身体拘束をしない支援に取り組んでいる。法人内部研修や外部研修、事業所独自の勉強会などで、何が身体拘束にあたるかを確認しており、利用者に対し身体的・精神的な苦痛や言葉による苦痛の無い支援を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	管理者は職員に、利用者や家族とよく話せる関係づくりが大切と伝えている。職員は利用者が話しやすくなる雰囲気づくりや、表情を観察しながら意見や要望の把握に努めている。知り得た意見や要望は申し送りノートに記入して職員間で共有し、できることはすぐ対応したり、ケース記録に反映させるなど運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。毎月の会議の他、随時集まる会議や食事会など、意見や提案を聞く機会が多い。ケアの方法見直しや変更など、出された意見や要望は、運営に活かせるように検討がなされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せるなどしている。	職員の努力や実績により、仕事を任せるなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらう等して会うようにしている。その際に、本人の要望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらう等して会うようにしている。その際に、本人の要望などを聞いている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらう等して会うようにしている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらう等して会うようにしている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況できるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。	相談を受けたときに、現在の状況できるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者の得意分野のことを教えて頂き、入居者一人ひとりが活躍する場面を作っている。	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者の得意分野のことを教えて頂き、入居者一人ひとりが活躍する場面を作っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生日等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生日等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や関係の継続に努めている。 ご家族に協力してもらい、馴染みの場所へ外出することもある。	馴染みの場所や関係の継続に努めている。 ご家族に協力してもらい、馴染みの場所へ外出することもある。	知人の面会時にはお茶の接待をし、ゆっくり過ごせる雰囲気づくりをしている。また、帰られる時にはお見送りし、再度の面会をお願いしている。家族に連絡をして自宅付近を見に行ったり、家族と協力して思い出の場所に行けるように支援している。昔訪れた場所やイベント参加など利用者一人ひとりに合った支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順等に配慮し、仲のいい入居者同士の交流を促している。	席順等に配慮し、仲のいい入居者同士の交流を促している。		
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	理念に、利用者の意思を尊重し利用者の立場に立って援助するとうたっており、職員はそのように支援するよう努めている。表情やしぐさから意向を読み取るように努めているが、困難な時には家族から聞いたりもしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	健康状態や認知・コミュニケーション能力・ADL・排尿排泄などの課題分析が詳しく書かれている。ケアプラン実施表で毎日確認がなされ、3ヶ月ごとのモニタリング、評価と合わせて介護計画が立てられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	契約時に、経営母体が医療法人であることや協力医療機関と隣接していることを説明しているが、決してかかりつけ医の変更を強制していない。利用者や家族の意向を大切に、入居前からのかかりつけ医の継続も支援している。通院は家族の送迎を基本としているが、事業所でも対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為の話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為の話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	「重度化した場合における対応に関する指針」が有り、契約時に本人及び家族に説明し同意を得ている。入院や重度化するなど利用者の状態に合わせて家族と話し合う体制ができており、利用者・家族と事業所は方針を共有している。現在まで数多くの看取り経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	年2回、消防避難訓練を行っている。訓練は、基本的には事業所単独で行っているが、時には隣接母体法人との連携確認も行われている。消防避難訓練の他に、水害等の防災訓練も実施されている。日頃からガスの元栓確認など、火の元の点検を心がけている。現在までは夜間想定での避難訓練だったが、夜間避難時の安全・安心につなげるため、実際の夜間に訓練することも検討中である。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	個人情報の使用目的や使用条件を明確にし、契約時に本人や家族に説明して同意を得ている。外部に出る写真などは、同意を得た人であっても必ずその都度確認を取る様にしている。理念にあるように、職員は利用者本人の人格を尊重し、敬意を払った対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりしていない。	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。	職員は個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしてもらっている。	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをもらっている。	献立は、母体法人の管理栄養士が考えているが、利用者の好みなどに合わせて柔軟に変更もされている。調理はホームのキッチンで行うが、リビングから遮るものも無く、調理の様子がよく分かり、良い香りも漂ってくる。利用者の関心も誘っているように見え、食事を待つ楽しみにもつながっている。職員も同じテーブルで利用者と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者でも、日中は可能な限りトイレに誘導している。	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者でも、日中は可能な限りトイレに誘導している。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。声掛けや誘導でトイレで排泄できるように支援しながら、パッドやおむつなど本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、言葉のかけ方を工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、言葉のかけ方を工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入浴は週2回を基本としているが、本人の希望があればできる限り支援するように心がけている。1人でゆっくり入浴できるように支援されているが、入浴剤を使用したり仲の良い人と入ることも支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	寝つきの悪い方には居間でお茶 を飲んでもらったり、話し相手にな ったりして気持ちを落ち着かせ、ゆ ったりとした気分で自然に眠れる ように援助している。	寝つきの悪い方には居間でお茶を 飲んでもらったり、話し相手にな ったりして気持ちを落ち着かせ、ゆ ったりとした気分で自然に眠れる ように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都 度職員が手渡し、服薬を確認して いる。薬の内容は、処方されるたび に記録し、内容を把握している。	薬の管理はホームで行い、その都 度職員が手渡し、服薬を確認して いる。薬の内容は、処方されるたび に記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている	入居者の持てる能力や希望に応じ 、茶碗拭き、洗濯物たたみなどの 役割を持ってもらい、ご自分の仕 事と認識して頂けるよう支援して いる。	入居者の持てる能力や希望に応じ 、茶碗拭き、洗濯物たたみなどの 役割を持ってもらい、ご自分の仕 事と認識して頂けるよう支援して いる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援 に努めている。また、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように支 援している	入居者の希望や状態によって外出 を支援している。家族の協力の下 馴染みの場所等へ外出すること もある。	入居者の希望や状態によって外出 を支援している。家族の協力の下 馴染みの場所等へ外出すること もある。	のどかな環境にあるホーム周りは 、散歩したり日光浴するのに適し ている。気候の良い日は近隣散歩 をし、地域住民との会話も楽しん でいる。隣接事業所も含めた敷地 は広く、花の時期にはお茶とお菓 子を持って庭でゆっくり花見をし ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援してい る	高額にならない程度のお金を持 って頂いている。必要に応じて、 買い物支援を行っている。	高額にならない程度のお金を持 って頂いている。必要に応じて、 買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使い やすいように日常的に言葉かけを 行っている。	入居者の方が手紙や電話を使い やすいように日常的に言葉かけを 行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなど、家庭的な雰囲気配慮している。	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなど、家庭的な雰囲気配慮している。	出来る限り窓を開けて換気を心がけ、心地よく過ごせるように支援している。温度や湿度も適切に管理されている。居間兼食堂は広く、テーブルやイス・ソファがゆったりと配置されており、利用者は好みの場所でくつろいでいる。居間の一角にユニット畳が敷かれており、ゆっくりと足を延ばして休むことができる。ゆったりと寛ぐ環境を大切に、不穏がある時は利用者の様子を見ながら精神的に落ち着く音楽を流す配慮もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室は洗面台付きで広い。入居契約時に、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを支援しており、テレビや家具・こたつ・ソファ・写真・手芸品などでその人らしい居室づくりがされている。カーテンやタンス、民芸飾りなどで個性的な居室も多くみられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けたまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さになっている。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けたまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さになっている。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない